

（１）共働のきっかけ・必要性

- 福岡市は全国的に見ても街中に豊かな緑地を守り残してきた自治体ですが、緑地の中には管理放棄によるヤブ化、不法投棄などが見られる場所もあります。
- これらの緑地は十分な管理があれば、市民の憩いの場や間伐材の利用など、身近な自然を享受できる場になります。
- 管理者である福岡市と保全・活用のノウハウを持つNPO法人グリーンシティ福岡の共働により、現在の福岡市にあった里山的な緑地の保全・活用を試行、展開しています。



（２）事業目的

特別緑地保全地区等をフィールドに、里山的な利活用の楽しさや技術を伝えること、近隣住民の合意を形成していくこと、それを支援する制度のあり方を検討することで、街中の緑地を現代の里山として再生することを目的としています。

（３）事業目標

2年目は事業目標として4つの成果指標を立てました。

「プログラムの開発と試行事業」では南公園と浄水緑地の2箇所では森の保全作業を継続して行い、活動団体の立ち上げや市民の参加機会の増加を目指します。「活用ガイドラインの普及事業」では初年度に作成したガイドラインの見直しや印刷・配布を行います。また、「活動団体の支援事業」では、既に市内緑地で活動している団体の課題解決や運営支援を行います。

成果指標	事業実施前	目標	実績
活動を支援した保全団体数	0団体	3団体	-
緑地保全活用ガイドラインの配布数	0部	500部	-
福岡市内の特別緑地保全地区等で活動する団体数	約10団体	+2団体	+0団体
(同上)での市民が参加可能なイベント等の回数	約40回	+10回	+1回

（４）事業内容

1. 活用プログラムの開発と試行事業

- 植物園里山ボランティアを8月から再開。全5回の定例活動を予定。浄水緑地でも森を使った保育に取り組む保育園等と連携して、森の手入れ体験を行うワークショップを準備中。



2. 活用ガイドラインの普及事業

○緑地の保全・活用についてのパンフレット（活用ガイドライン）の印刷・配布の準備を行っています。



3. 活動団体の支援事業

○市内の緑地等で活動する既存の活動団体の課題解決や運営支援を3団体で行います。

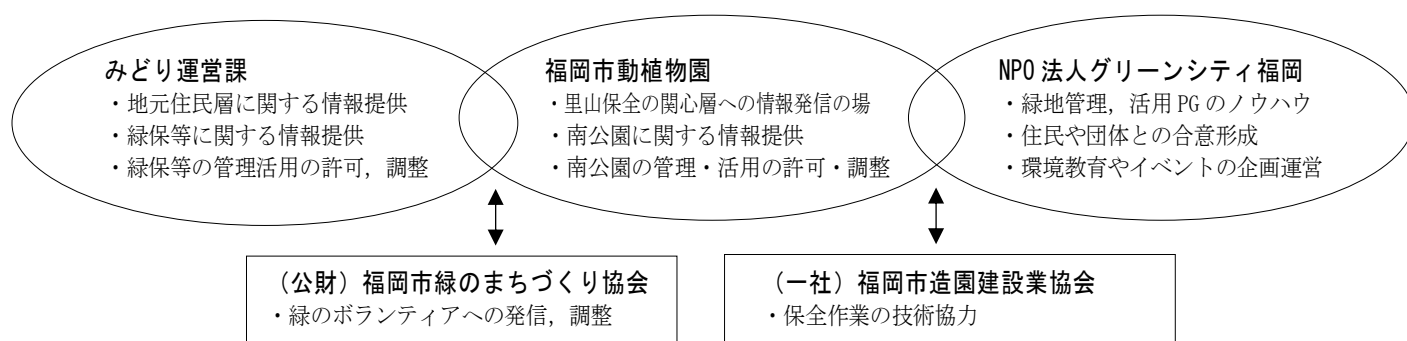


例) 斜面地での竹切りの技術指導



例) 自治会、町内会と連携した樹林のある公園の整備

(5) NPOと市の役割分担



(6) 担当者の声・市民の声

○担当者：せっかく市内にこれだけの緑地が残されているながら、それを知る人が少なかったり、荒れた状況になっていたりする点を残念に思っていました。より市民に愛される森を育てていきたいと思います。

○担当者：感染症対策を踏まえた保全活動の進め方を確立していきたいと思います。

○参加者：「また参加します」「森の観察がよい時間だった」「森がきれいになり気持ちいい」など。

(7) 翌年度への展開

○作業を通じてボランティアの募集や人材育成を行っており、3年間の継続を前提に取り組んでいます。

○令和3年度は南公園等で活動しつつ4年目以降の継続的な活動体制づくりを行います。加えて、ガイドライン普及と活動団体支援により、市民が参加できる緑地の保全・活用の機会の拡大を目指します。